

2025年日本国際博覧会 パビリオン・施設の紹介 (No.26)

休憩所 1 (fuku fuku)

【設計】大西麻貴＋百田有希/o+h



写真 太田拓実

【設計概要】

世界から多様な方々が来場される万博であることから「誰にも開かれた五感で感じることができる休憩所」とすることを考えて設計した、黄色、赤、オレンジのテキスタイルで葺かれた大屋根の休憩所である。

たくさんのパビリオンを忙しく訪れる中で、ふと立ち止まって光の綺麗さに気がついたり、風を感じたりしながら、万博での体験を反芻する場を目指している。中央の円形の休憩エリア内は、冷気が下からじんわり染みでてくる、触れると涼しいハンモック状の床であり、体を横たえたと風で動く屋根のテキスタイルや透過する光を自然と見上げられるようになっている。来場者にとって心地よい日陰を作り出すとともに、揺れ動く半透明のテキスタイルによって、風の移ろいや光の美しさを感じられる場所となってほしいと考えた。

膜屋根に葺かれたテキスタイルは、ファッション業界の中でデッドストックとなっていた生地を提供いただくことで実現した。通常建築には使われない生地であるため、耐候性/強度試験を行い、半年間の会期中に、生地の色等がどの程度劣化してしまうのか実験を行ったうえで、色や風合い、ロット数の異なる約40種類の生地を選定し、生地の集合全体が美しいグラデーションになるように、一つ一つ手作業で取り付けた。

建築は通常、固く動かないものだと思われるが、風が吹くとさざなみのように揺れるテキスタイルをまとった特徴的な屋根の佇まいや、ひんやりとした触れなくなるネット状の床など、視覚はもちろん、触覚、聴覚、嗅覚など五感を触発する空間とすることで、誰にも開かれたインクルーシブな空間となることを目指した。

写真協力：2025年日本国際博覧会協会